

世界史B 近現代 17 西アジア・アフリカの改革(2)

1,オスマン帝国(1299~1922)

ヨーロッパ勢力の侵略→17世紀末以降支配領域を縮小・支配体制も動揺

19世紀 エジプトの自立、()1地域)の独立運動

マフメト2世(位1808~39) ♡a

1826年 旧勢力を代表する()2軍団を一掃して砲兵隊中心の新軍を創設。

1829年 ギリシャ独立

1830年代 エジプト=トルコ戦争→西欧列強の仲介により()3を回復。

♡a---第30代皇帝。中央集権化と西欧化を上からの改革として進め、オスマン帝国の「啓蒙専制君主」といわれる。軍医学校など近代的な教育機関を設置し西洋に留学させ、常設大使館や()4制度の導入、官吏の制服の洋装化、総理大臣の官名など。

1838年 イギリスと不平等条約♡b締結→エジプト問題でイギリスの支持を得るため

♡b---関税()5権を喪失し低率の固定関税とし、専売制を廃止するなど⇒ヨーロッパ製品の流入を招く

1839年 ()6 1世(位1839~61)即位

┌中央集権化政策

└()7=恩恵改革=行政・税制・軍事などの近代化の改革(ギュルハネ勅令)

イスラム信仰の有無に関わらず全臣民の法の下()8など西欧をモデルとする

→オスマン帝国の解体・西欧諸国のオスマン帝国への勢力拡大 を助長

┌オスマン帝国の市場→イギリスとの不平等条約(1838年)以来さらに開放

改革推進のための()9導入→国家財政破綻

└ヨーロッパ諸国の内政干渉の拡大 従属諸民族の独立も促進

1853年 ()10戦争開始⇒ロシアを敗退させるが、戦費により財政破綻

⇒イギリス・フランスへの従属がさらに強まる。

アナトリアとバルカン半島→西欧向け商品生産

→┌ギリシャ人・アルメニア人()11教徒の経済力強化

└()12人・ブルガリア人の独立・自治への志向

1860年代 帝国の臣民は民族・宗教の相違を超えて一つ、との主張→「新()13人」

→専制を廃して()14政治を目指す運動が高まる

アブデュルハミト2世(位1876~1909)

宰相()15=パシヤ(1822~84) (任1872, 76)♡cのもと (パシヤ---オスマンの高官の称号)

1876年 オスマン帝国(ミドハト)憲法公布=()16最初の近代憲法

♡c---イスタンブールの法官の子として生まれる。書記官僚としてヨーロッパに視察旅行。その後州知事として地方行政改革で業績。1869年バグダード州知事。1872年首相(大宰相)となるが3ヶ月で辞任。1876年再任され帝国憲法を作成。翌年解任され「危険人物」として国外退去。その後復帰するが1884年アラビア半島で刑死する。

1878年 ()17戦争(1877~78)を理由に同憲法を停止・議会解散→専制化

()18会議

┌ルーマニア・セルビア・モンテネグロなどバルカン半島の諸民族国家の独立

└オスマンはバルカン半島の領土の多くを失う

2、青年トルコ人

1889年 青年トルコ=({)19と()20のための委員会}

近代教育を受けた青年エリート。憲政復活を目指す。

1908年 青年トルコの将校を中心にサロニカ(ギリシャ名テッサロニキ)などで武装蜂起。鎮圧部隊も反乱に参加。

皇帝→ミドハト憲法を復活・議会(下院)再開⇒青年トルコ()21

「パン=()22主義」を掲げる

→┌帝国内のトルコ人の団結を目指す

└非トルコ人の反発→それを利用した列強の干渉

⇒3B政策をとる()23と接近

3、北アフリカの植民地化

1830年 フランスがオスマン帝国の属領であった()24♡d=北アフリカ=を占領・植民地化

1878年 ベルリン会議(露土戦争後)→オスマン帝国は()25♡e=西アフリカ=の宗主権をフランスへ譲渡

1881年 フランスが侵攻しこれを保護国とした

♡d---アルジェリア民族運動の父と言われる()26(1807~83)は16年間フランスに抵抗。フランス側からも敬意と畏怖の念。のちナポレオン三世への協力により勲章とパリ廃兵院に肖像画が飾られる。

♡e---フサイン朝(1705~1881)がオスマンから自立。近代化、西欧化により1861年憲法制定。イスラム、アフリカ初の立憲君主制。保守派の抵抗により64年憲法停止。1907年独立を目指す「()27チュニジア」結成。

1911年 イタリア=()28戦争(~12年)

→オスマン帝国領のトリポリ・キレナイカ=北アフリカの地中海沿岸=を占領

1912年 両地域を併合して()29と改称

1904年 ()30協商=英のエジプト、スーダン、仏のモロッコでの優越を承認

ドイツ⇒フランスが英仏協商で得たモロッコに対する優越的権利に干渉

二度の()31事件 モロッコ王国(アラウィー朝♡f 1660~現在)

第一次1905年---皇帝ヴィルヘルム2世がモロッコ北端の港町()32を訪問。

→06年アルヘシラス会議でフランスの優位を確認。(アルヘシラスは英領ジブラルタルの西隣)

第二次1911年→反乱により仏が軍隊派遣⇒独は軍艦を南西の港町()33に派遣

1912年 ()34条約⇒フランスがモロッコを保護国化。南部(スペイン領サハラ隣接)はスペインの保護領に

♡f---前のサアド朝と同じくスーフィー王朝。西欧諸国と友好政策のち鎖国政策。1856年から英、スペイン、フランスにより不平等条約締結。



アブデュルメジト1世



ミドハト=パシヤ



アブド・アルカーディル



初の立憲君主サドク・ベイ (チュニジア)

- ・露土 ・外債 ・平等 ・自主 ・統一 ・通商 ・郵便 ・立憲 ・進歩 ・英仏 ・青年 ・不平等 ・フェス
- ・アジア ・ドイツ ・リビア ・トルコ(2) ・オスマン ・フランス ・エジプト ・アラビア ・ベルリン
- ・ミドハト ・モロッコ ・バルカン ・クリミア ・チュニジア ・アルジェリア ・タンジマート ・タンジール
- ・イエニチェリ ・アガティール ・アルカーディル ・アブデュルメジト